

夢洲コアジサシ・時系列 その2

2021 年 コアジサシ・シーズン

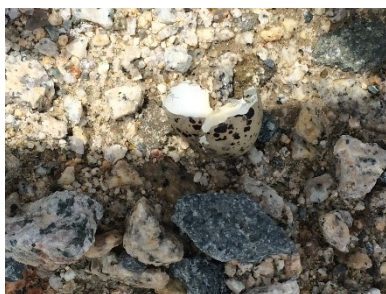
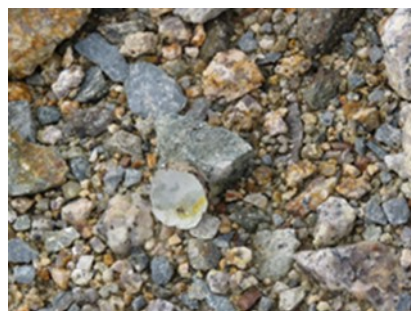
5 月 23 日 2 区プラスチックドレーンエリアで、抱卵しているとおもわれる姿勢で座り込むコアジサシ
ほかに、動画で、おなか下の卵の位置を整えるようなしぐさ・交尾を撮影。えさを運ぶ姿や求愛給餌行動を複数
目撃している。この日も 2 区で 200 から 300 羽ほど目撃。



5 月 30 日 2 区プラスチックドレーンエリア 300 羽ほど飛んでいるのを目撃。交尾も複数確認。
写真は、抱卵していると思われるペアにえさを運ぶコアジサシ。



6月6日 2区プラスチックドレーンエリアに入って、巣を探したところ、卵2個の巣2つ、1個の巣4つは確認。また、割れた卵の殻だけでも10前後あった。



卵は小石のような柄があり、コアシサシの巣は砂利面に、少しだけ窪みをつくり、そこに産む。

指でさしているのが、コアシサシの飛び立った後。（ここに産もうとしていたのだろう。もしくは、産んだ卵を盗まれたかもしれない。） 一個だけの卵は、気づきにくく、かなり注意していても、踏む恐れがある。



同 6 月 6 日、プラスチックドレーンの合間に、コアシサシが降り立っていたり、座り込んでいたりする。

ちょっとしたくぼみや、陰にいたので、望遠レンズでも何羽か確認できないが、カラスなどが近づくと、すぐ 10 羽近くが飛びあがりモビングする。カラスがなかなか立ち去らないと威嚇するコアシサシの数が増えていく。





運んでくるえさは、かなり大きめなので、まだヒナへの給餌ではなく、求愛行動もしくは抱卵ペアへの給餌だろうと思われる。コアシサシの営巣適地は、コチドリ・シロチドリも同時期に営巣するので、コアシサシと同時に、コチドリ・シロチドリなども見られる。

この日、1 時間程度、2 区エリアの一部で確認したのは、

卵 1 つの巣 4 箇所、卵 2 つの巣 2 箇所、割れた卵の殻 10 箇所

南の干潟側通路より、交尾行動は 5 ペア、および、少なくとも 50 羽は座り込んで抱卵しているように見えた
※なお、エリアは起伏があり、望遠をつかっても見えない場所がかなり存在するので、以上の数はごく一部で、となります

6 月 7 日(月) 前日 300 羽確認、工事をいったん止めてほしいとメールで大阪港湾局に再度要請。

6 月 8 日(火) 午前中、現地で調査をしているとのことで、調査はかならず専門家だと電話で大阪港湾局に再度要請。現地作業員 90 分の調査で、かなりの数の卵を発見したとのこと。

6 月 9 日(水) 港湾局、いったんプラスチックドレーンエリアを立ち入り禁止にし、専門家の意見を聞くとのこと。

10 年ほど前には、この夢洲に、一万を超える数のコアジサシが渡りの前に集合していたといえます。(日本野鳥の会大阪支部「むくどり通信」238 号(2015 年 7 月))

昨年大阪湾では大きなコロニーの報告がなかったらしいが、現代、大規模なコロニーのできる場所が減っています。コアジサシは人のいないところで繁殖するので、あまりなじみがない渡り鳥だと思いますが、年々数を減らしているのは確かなことで、トキやコウノトリのように絶滅させてしまっては取り返しがつきません。

夢洲でのコロニーを守れるか否かは、今まさに大阪湾でのコアジサシのポイント・オブ・ノーリターンだと思います。夢洲での繁殖保護は、SDGs をかかげ「いのち輝く」をテーマにしている万博の象徴となるのではないのでしょうか。なんとか埋め立て工事を一時中断して、繁殖をみまもってほしいと願っています。